

# 病態制御科学専攻－病態機構学講座 口腔病理学分野

Department of Oral Pathology and Medicine

## 細胞・分子・遺伝子レベルでの病態探求

### 分野紹介

口腔病理学分野は、アジアのみならずヨーロッパや南米から多数の外国人留学生およびポスドク研究者を受け入れてきた国際色豊かな研究室です。卒業生は世界各国の研究機関で活躍しています。さらに、岡山大学病院・病理部口腔病理診断部門として病理診断業務を担当。臨床と連携して症例報告や臨床病理学研究にも取り組んでいる他、病理医としての道が開ける「口腔病理専門医」取得に向けたカリキュラムも用意されています。



### 主な研究プロジェクト

#### 歯原性腫瘍の分子生物学的解析

代表的な歯原性腫瘍であるエナメル上皮腫の顎骨吸収に関係する因子の解明、間質の性質と浸潤性との関連性の解明を中心とする。

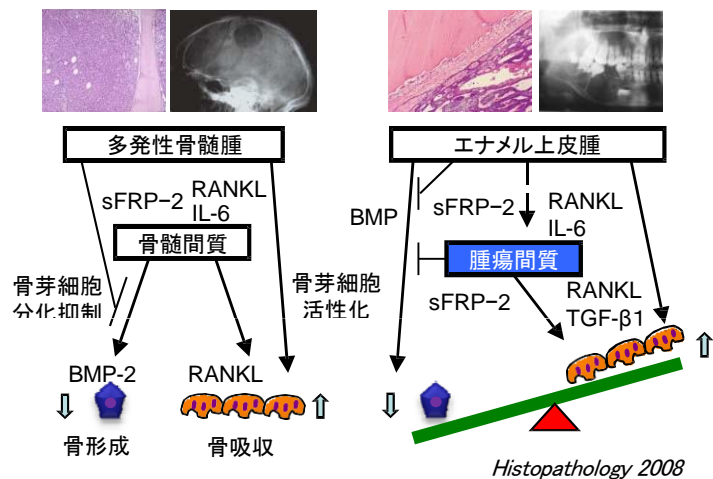
#### 口腔扁平上皮癌の新規癌抑制遺伝子の発見

細胞増殖を抑制する癌抑制遺伝子の欠失や機能低下は細胞の癌化に重要な役割を果たす。扁平上皮癌におけるLOH解析により、新規癌抑制遺伝子の発見を目標とする。

#### 新規インプラントコーティング材：チタン酸カルシウム-非晶質炭素複合物(CaTiO<sub>3</sub>-C)の開発

従来のインプラントの欠点を克服するため、生体活性を有し長期的な骨結合を維持する生体材料として、チタン酸カルシウム-非晶質炭素複合物(CaTiO<sub>3</sub>-C)を開発。新規医用材料としての実用化を目指す。

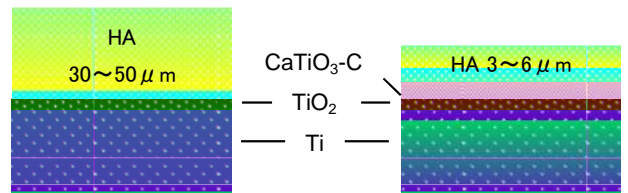
#### エナメル上皮腫はなぜ特異的な骨吸収を惹起するか



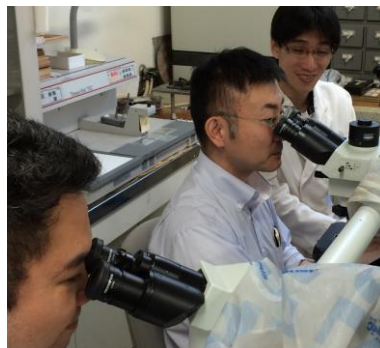
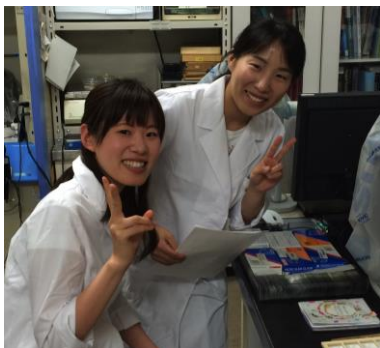
#### 再建歯学・医学のための新規生体材料の開発

プラズマコーティング  
(従来法)

CaTiO<sub>3</sub>-C/HAコーティング  
(新規開発法)



コーティング材への応用：インプラント、生体用チタン材料 etc.  
歯科用材料への応用：裏装剤、歯面コーティング etc.



連絡先／岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 口腔病理学分野 (長塚 仁)

〒700-8525 岡山市北区鹿田町2-5-1 歯学部棟

TEL:086-235-6651 FAX:086-235-6654

E-mail: jin@md.okayama-u.ac.jp

URL: [http://www.dent.okayama-u.ac.jp/byouri/Path\\_J.htm](http://www.dent.okayama-u.ac.jp/byouri/Path_J.htm)